

⑰感覚・運動器系 4 (形成外科)

1. 研修目標

頭蓋顔面から四肢に至る全身の主として体表の先天異常や後天性疾患に対して、局所の外科治療のみならず患者や家族の心理的・精神的側面から援助できる医師の養成を目指す。形成外科・再建外科の疾患を把握し、熱傷や顔面、四肢外傷に対するプライマリ・ケアが行えるようになるための基本的な知識や技術を修得、外傷患者や再建手術における周術期の管理、先天異常の治療法を修得することを目的とする。

2. 研修指導体制

指導医がマンツーマンで指導を行い、主治医グループの1員として、6～7人の入院患者を受け持ち、指導医とともに責任ある立場で入院患者の管理と治療に従事する。以下のグループを1か月ローテイトする。

- ①一般形成外科(唇裂口蓋裂をはじめとする各種の体表先天異常と皮膚腫瘍)
- ②頭蓋顎顔面外科(頭蓋顔面骨の外傷と変形)
- ③マイクロサージェリーと手の外科(再建外科と手の外科)

外来では、診察者の補助、患者の記録・外来検査や処置を担当し、併せて診断の基本を修得する。夜間・休日の救急患者の処置と治療にはグループを問わず参加し、治療に従事する。学生臨床実習では、主治医の1員として学生教育の補助を行う。

3. 研修指導責任者 平野 明喜

4. 研修内容

- (1) 各種先天異常における治療内容の把握と治療計画の実施
- (2) 皮膚・軟部組織再建についての基本概念の修得と実施
- (3) ケロイド・肥厚性瘢痕についての基本概念の修得と実施
- (4) 褥瘡・皮膚潰瘍に関する理解と予防法・処置・治療の修得
- (5) 外傷や熱傷に対する基本的な知識と技術の修得
- (6) 全ての形成外科対象疾患に対する基本的な知識と術前後の処置の修得

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

- (1) 臨床医として治療のみならず周術期においての心理的・精神的側面からも援助できる医師として行動できる。全ての形成外科で取り扱う疾患についての理解・知識の修得と形成外科に関する診察・診断法・基本手技を修得する。
- (2) 患者の局所状態だけでなく全身状態を把握し、問題点に対して適切な対応ができる。
- (3) チーム医療の一員として、他科の担当者と適切な対応ができる。
- (4) 形成外科領域の疾患において、患者の疑問や質問に対応できる。
- (5) 入院患者の資料計画を立案し、入院後の管理を行える。

5-2 経験目標

- (1) 術後創傷の管理・処置
- (2) 新鮮熱傷の診断・全身管理・初期治療
- (3) 熱傷瘢痕の局所管理・処置
- (4) 顔面軟部組織損傷の診断と治療
- (5) 顔面骨骨折の診断と治療
- (6) 唇裂口蓋裂
- (7) 手足の先天異常
- (8) 手の外傷

- (9) 母斑・血管腫、皮膚良性腫瘍
- (10) 皮膚悪性腫瘍
- (11) 瘢痕拘縮の治療、Z形成術
- (12) 褥瘡・皮膚潰瘍の局所管理・処置
- (13) 腫瘍摘